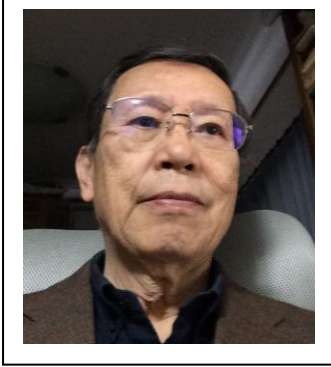


広島大学マスタース・オンライン講演会

『ウイルス感染症の基礎知識と新型コロナウイルス感染症』

講 師：松田治男(広島大学名誉教授/広大マスタース幹事)



略歴：1947年大阪市に生まれる。大阪府立大学大学院農学研究科獣医学専攻博士課程修了。農学博士(大阪府立大学)。大阪大学微生物病研究所(感染病理学部門)助手、徳島大学医学部・岡山大学医学部のウイルス学の助手を経て、1981年4月に広島大学生物生産学部助教授、1994年4月に教授。2010年3月に定年退官。2010年4月から2年間特任教授。2011年11月に中国文化賞受賞。専門は免疫学、抗体工学、病原微生物学。

司 会：谷本 能文(広島大学名誉教授/広大マスタース代表幹事)

日 時：令和3年9月18日(土) 13:30~14:30

場 所：オンラインで開催(Zoomアプリを使用 双方向)

講演要旨：昨年来、世界中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19という)が地球規模で蔓延し、パンデミック状態が続いている。本年4月26日現在、世界全体での感染者数は1億4646万1651人で、死者は309万9467人。日本では同日死者数が1万人を超えたと報じられた。COVID-19の病原体の正体は直径約100nm(nmは10億分の1メートル)のRNAウイルス。人間に感染するコロナウイルスは全部で7種あり、その内4種類は6歳までに感染する。残る3種類はSARS-CoV-1(重症急性呼吸器症候群コロナウイルス-1)(2002-2003終息)、MARS-CoV(中東急性呼吸器症候群コロナウイルス)(2012-継続)そして現在流行中の新型コロナウイルスがSARS-CoV-2(重症急性呼吸器症候群コロナウイルス-2)(2019-継続)である。ことに新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は今後長年にわたって人間界に居座り続けると想像されている。重大な感染症は大きく二つに分類される。1つはこれまで未知であった病原体が顕在化して重大な感染症を引き起こすもので、これを新興感染症といい、例えばエボラ出血熱、出血性大腸菌症、エイズ、SARS、高病原性トリインフルエンザなどがそれにあたり、COVID-19もまた新興感染症である。もう一つは過去に大きな被害をもたらした感染症がしばらく沈静していたのが再び流行して被害をもたらす感染症で、これを再興感染症といい、結核、コレラ、マラリアなどがこれに相当する。

この講演会では、ウイルス感染(症)の基礎知識を含め、新型コロナウイルスに関わる最近の情報を元に、このウイルスの感染における特徴やウイルス変異がもたらした諸問題、そしてわが国でも接種が開始されたワクチンについても解説してみたい。なお、COVID-19は現在進行中の感染症であることから、本要旨記載(2021.4.26)の後の状況については講演の中で取り上げたい。

主 催：広島大学マスタース 共 催：広大マスタース友の会

【申込先】参加希望者の氏名(ふりがな)・メールアドレスを明記の上 hikeda@hiroshima-u.ac.jp (池田幹事)宛申込み下さい。参加者には開催日当日開始時刻の30分前に招待URL及びミーティングID・パスコードをメールでお知らせします。招待URL等からご参加下さい(アカウント不要)。申込み締切は9月11日(土)です。

【問い合わせ】広大マスタース池田幹事・電話 082-422-5863